



たまねぎ春まき作型におけるセルトレイ育苗法

【1 成果概要】

- (1) 圃場での栽培期間が短いたまねぎ春まき作型においては、苗質の良否が本圃での生育や収量を大きく左右しますので、被覆肥料の有無、育苗方式（遮根育苗・地床育苗）、セルトレイ種類（200穴・288穴・448穴）を比較することにより、最適な育苗方法を明らかにしました。
- (2) 慣行のネギ育苗培土を用いた場合、被覆肥料（マイクロロングトータル280 100日タイプ；チッソ12%、リン酸8%、カリ10%）をネギ育苗培土に対し重量比2%添加すると、苗質が向上し、収量が2割程度増加します。（図1）。
- (3) 288穴セルトレイで十分な苗質を確保できます（図1、図2）。

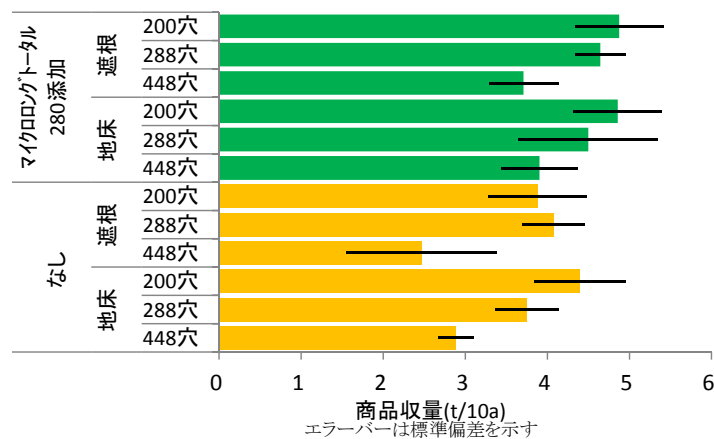


図1. 育苗方法が苗質および収量に及ぼす影響

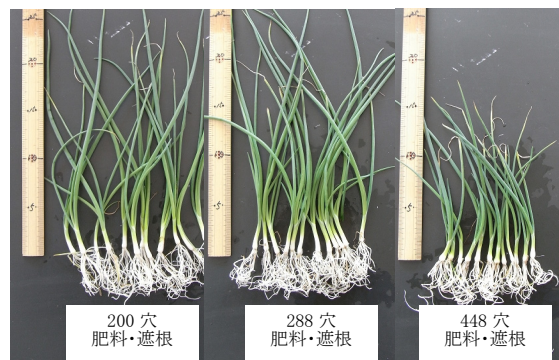


図2. セルトレイ種類による苗の状況

【2 効果】

苗質が安定し、たまねぎ安定生産に寄与します。

【3 留意事項】

- (1) 遮根育苗、地床育苗の間に収量差は認められません。
- (2) 288穴セルトレイで育苗した場合の育苗期間は加温育苗で60日程度です。ただし、無加温育苗の場合は10日程度育苗日数を伸ばします。
- (3) 定植時の苗の目安は葉数3枚、根数12本前後、葉鞘径4mm程度です。
- (4) 育苗はトンネルを設置して二重被覆した無加温ハウスで行います。
- (5) 育苗培土は'くみあいネギ専用培土(1L、約500g当り肥料成分：チッソ700mg、リン酸1500mg、カリ190mg)'を使用しました。
- (6) 品種は'もみじ3号'を用いました。
- (7) 詳細については、「平成26年度試験研究成果」をぜひご覧ください。

【4 適応対象】

- (1) 地帯 県中北部
- (2) 対象者 営農指導者（農業普及員等）